

授業シラバス

詳細情報

2011-4020000109-01

科目名「クラス名」(サブタイトル)	期別	単位数	開講年次
経営管理論	後期	2	2
担当教員	藤野 真		

概要

講義の目的
経営管理論では、現代に至るさまざまな管理論を概括すると同時に、それら管理論が提起された理由を社会・企業（資本主義経済における企業）・組織・人間（人間観）に注意を払いながら学習していきたいと思ひます。また、それら管理論の発展の方向とその意味について考えていきたいと思ひます。

講義の進め方
講義は、配布したレジュメに沿って行ひます。レジュメは、専門用語や重要語句が空欄になっています。また、まとめや小括にあたる部分は100～200字程度の文章を書き込む空欄を設けています。
講義では、おもに上記のような空欄を埋めるとともに、教員がおこなった説明などのメモをおこなってください。
レジュメを埋めればそれで学習が終わるわけではありません。レジュメを埋めることは学習を促進させる一つの手段でしかありません。したがって、主体的・自律的態度をもって講義に臨んでください。

到達目標

- (1) 経営管理の生成と発展を知ることができます。
- (2) 社会・経済の変化と管理制度の変遷について知ることができます。
- (3) 経営管理に関する学説を知ることができます。

成績評価基準および方法

評価方法と評価割合
評価は、定期試験（80%）、小テスト（20%：2回）を総合して行ひ、60点以上を合格とします。

評価基準
既存の学説を踏まえたうえで、客観的な根拠をもって自身の考えを述べることでできている解答であるかどうかを評価の基準とします。

出席と欠席について
講義への出席は当然なので評価に加味しません。自身の優先順位に従って行動してください。

テキスト

テキストは指定しません。
講義はレジュメをもとに進めます。

参考書

稲村毅・百田義治編著 [2006]、『経営組織の論理と変革』ミネルヴァ書房（叢書 現代経営学8） ISBN 4-623-03896-3
塩次喜代明・高橋信夫・小林敏男 [1999]、『経営管理』有斐閣（有斐閣アルマ） ISBN 4-641-12067-6
参考書は講義のなかで適宜紹介していきまひます。

履修上の留意点

- (1) 経営管理論について意欲的に学習する意旨がある学生の受講を希望します。
- (2) 注意したにも関わらず、著しく受講態度が悪い場合は、出席を遠慮してもらひます。
- (3) 部活・サークル活動による欠席はとくに配慮しない。

授業計画

1. イントロダクション
2. 経営管理の生成と発展（1）
市場と組織、ビック・ビジネス
3. 経営管理の生成と発展（2）
産業革命、企業の水平的・垂直的拡大
4. 経営管理の生成と発展（3）
内部化、職能別組織、経営階層と本社機能
5. 所有と経営の分離と企業経営
所有と経営の分離、
コーポレート・ガバナンス
6. 経営組織と構造
集団と組織、協働システムとしての組織
7. 経営組織における権力と管理の正当性
M・ウェーバー、権力と権限、
権限による支配
8. M.ウェーバーと官僚制組織
官僚制、官僚制の逆機能
9. J.H.ファヨールと管理過程論
管理、管理原則、管理職能
10. 大量生産システムにおける管理
科学的管理、フォード・システム、経済人
11. 経営学における人間性の発見と管理
ホーソン実験、X-Y理論、社会人
12. 個人と組織の管理
個人と組織、共通目的と貢献意欲、自律人
13. H.A.サイモンと意思決定論
限定合理性、組織目的、意思決定
14. 企業倫理と企業の社会的責任
企業倫理、法令遵守、企業の社会的責任
15. まとめ